

陰
本
通
常
云

41

後本通資志卷之七目錄

狻猊怒糸まぐろのけさう

返躑躅りんとこのつとむ

踞地こど

狂獅子くらひぶし 二品

獬廌たけ

竹ノ虎たけ

竹に猿たけ 猿さる

猿さる 愛児あいのこ

竹小葉たけ 葉は

物小夏草もの 夏草なつぐさ

竹萩たけ 萩はぎ 兎うさぎ

強馬うま

輝乃鹿あき

鹿か 鹿か 牧まき

夏なつ 夏なつ 牧まき

秋あき の 板いた

野の 野の 野の 牛うし

龍魚之部

登龍

飛龍

鰲

棘鰐魚

漏珠

巴

藻

鰓

藻出化鯉

真草

葦に鯰

鮎春秋

藻と長鯰

蘆間蟹

毛龜

後現怨影

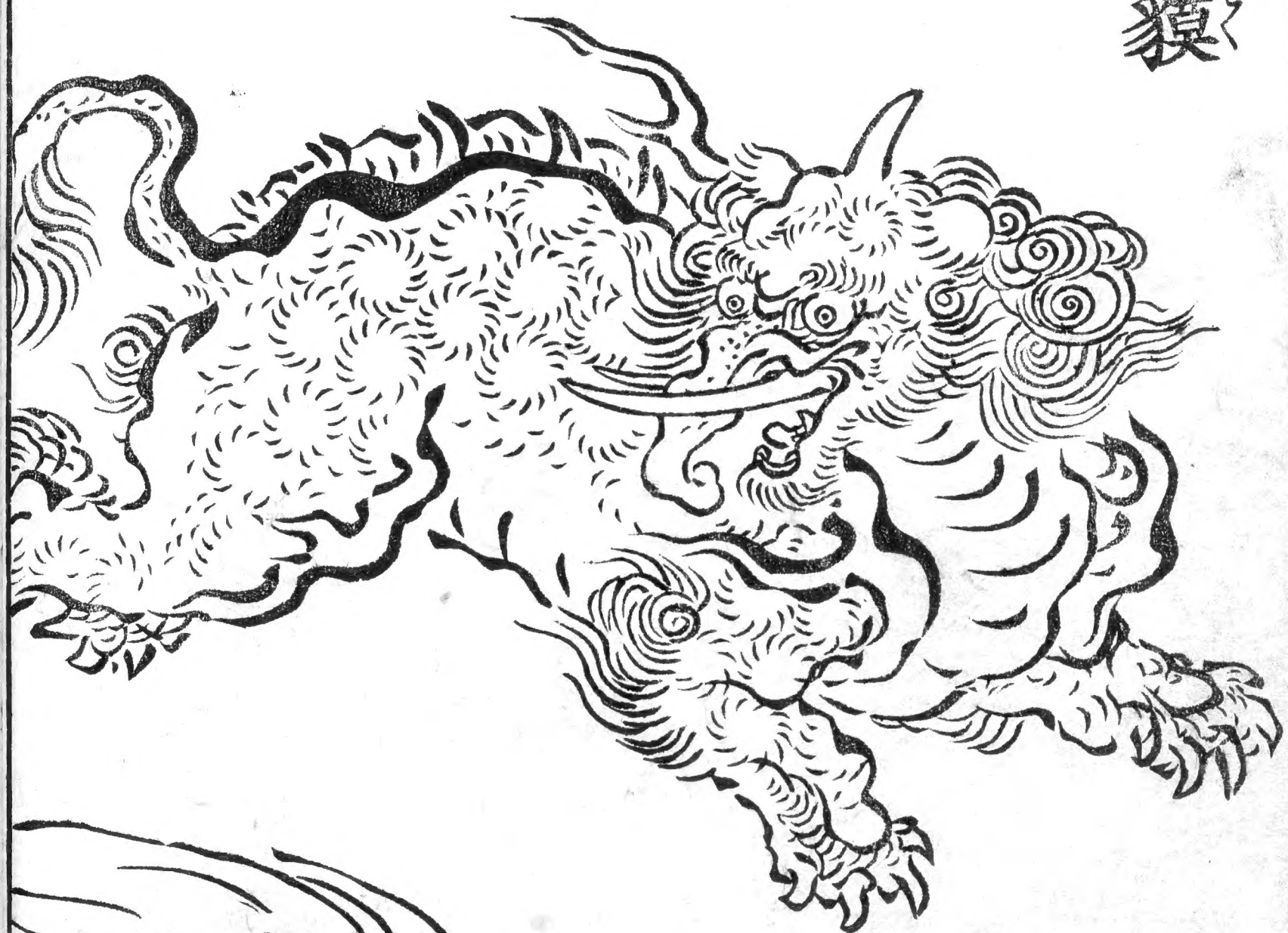
影を赤い





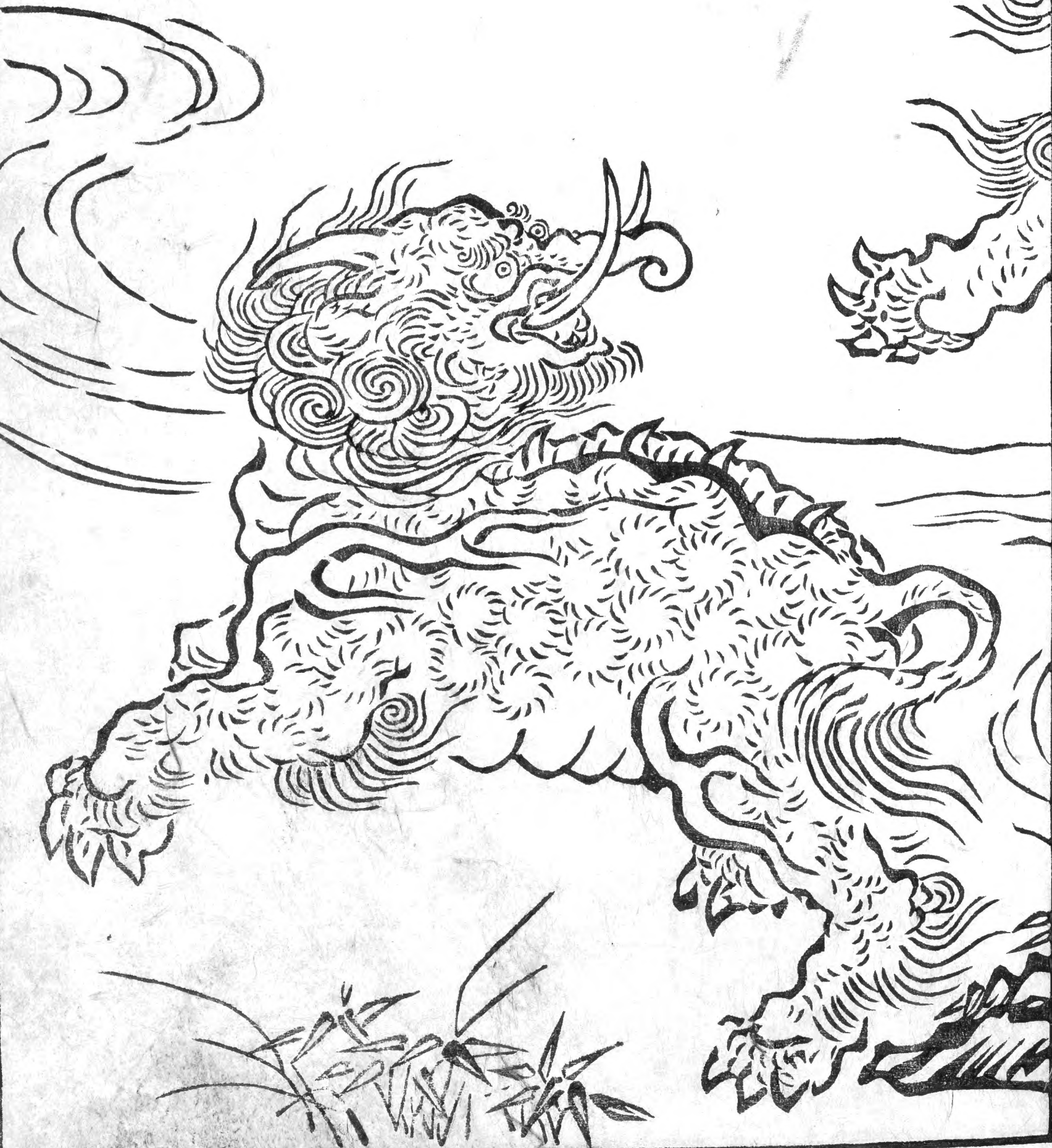


貳



寶鑑後集卷七

四



寶鑑後集卷七

四



竹と虎



竹小猿たけのこざる



新編猿蓑

猿愛児さるこゝろのこ



新編猿蓑

物モノの草クサ

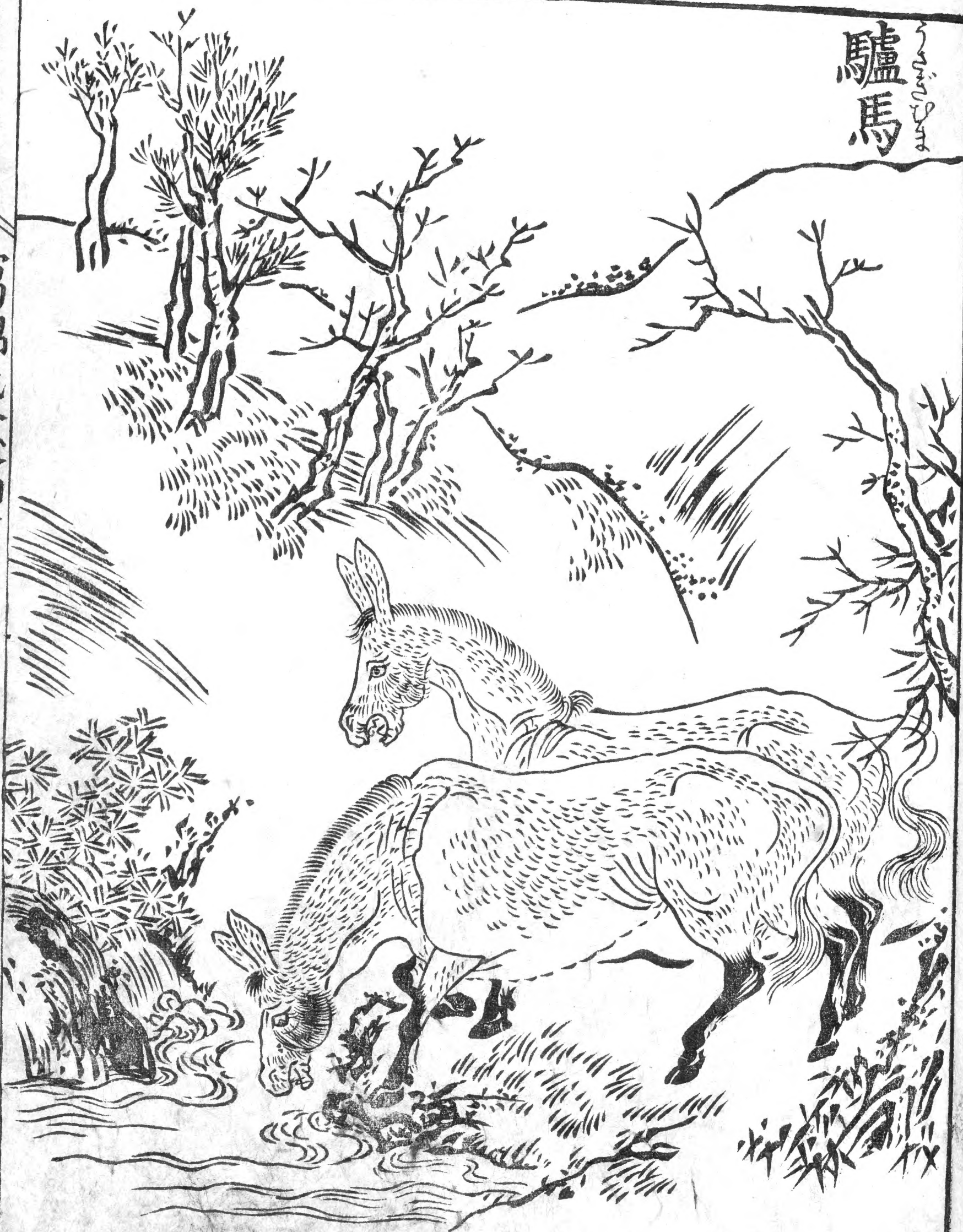


竹タケの葉ハのミ葉ハ



鳥トリの葉ハのミ葉ハ

驢馬



竹荪兔



馬鹿

竹荪兔

あきのし
秋鹿 雄鹿 青毛 とうま 朱す とうま 月毛 とうま
章 とうま 振白



鹿ハ黄毛 かなめ
し かなめ かなめ

かなめ かなめ かなめ



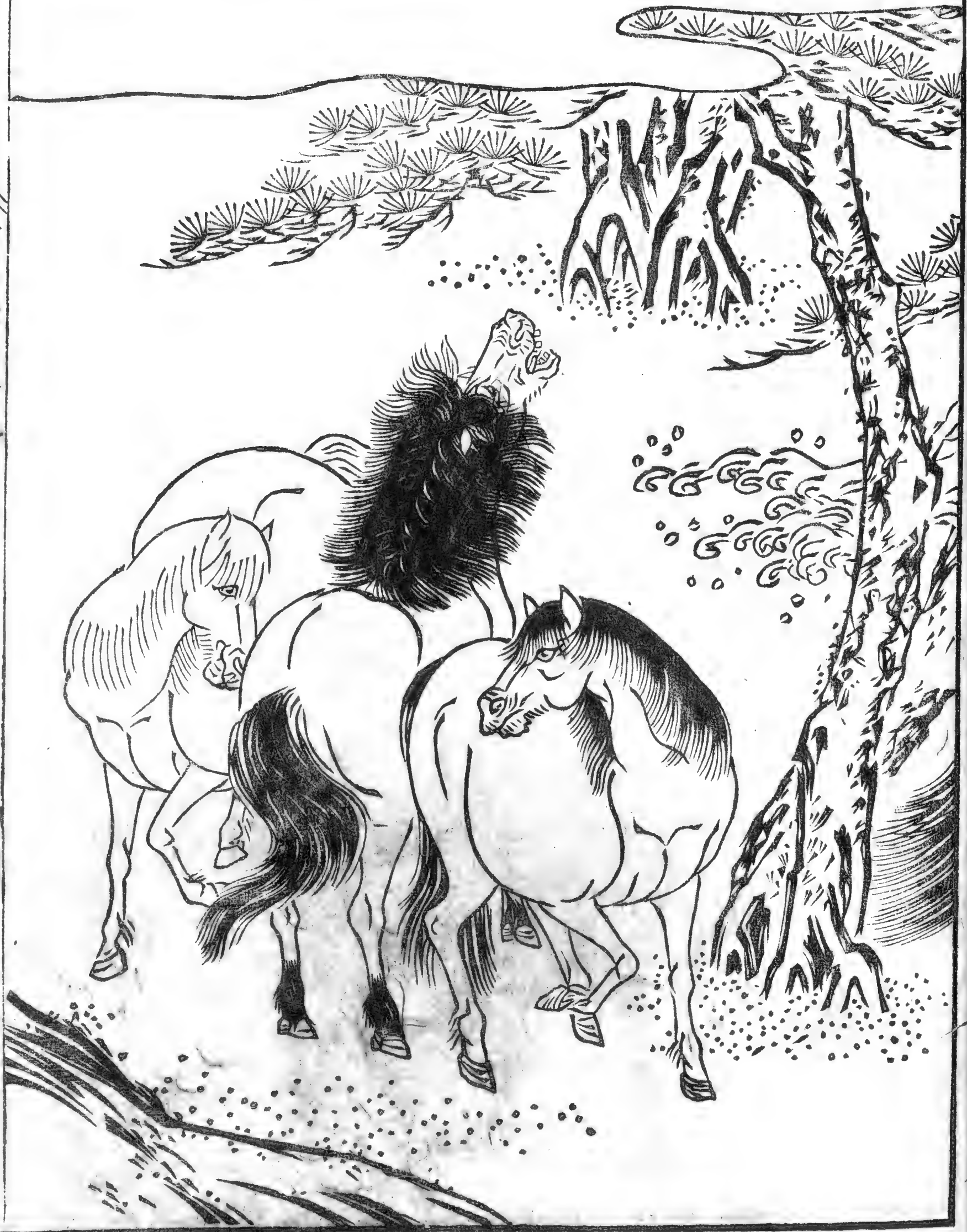
春の牧



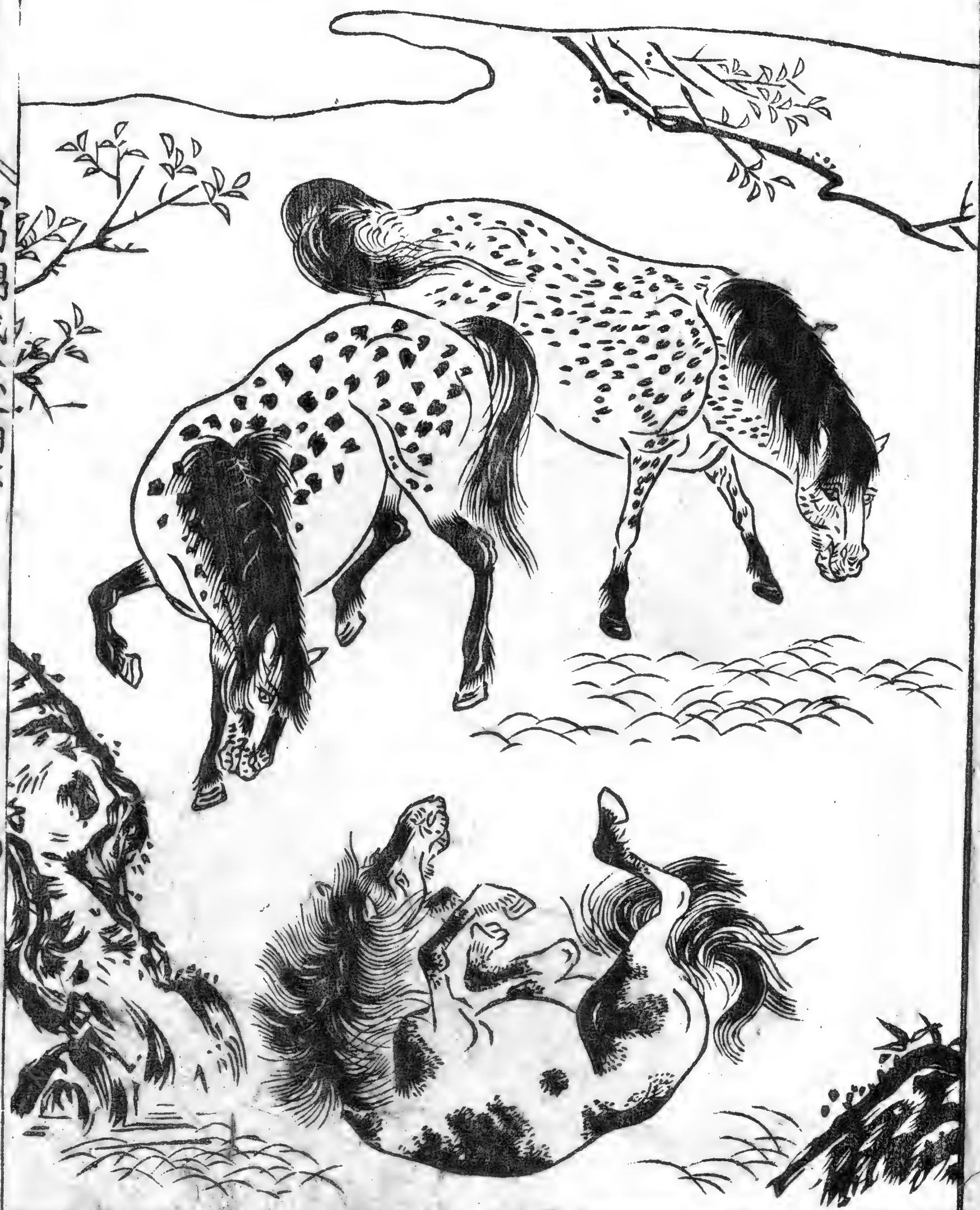
牧馬



あし
まの
牧



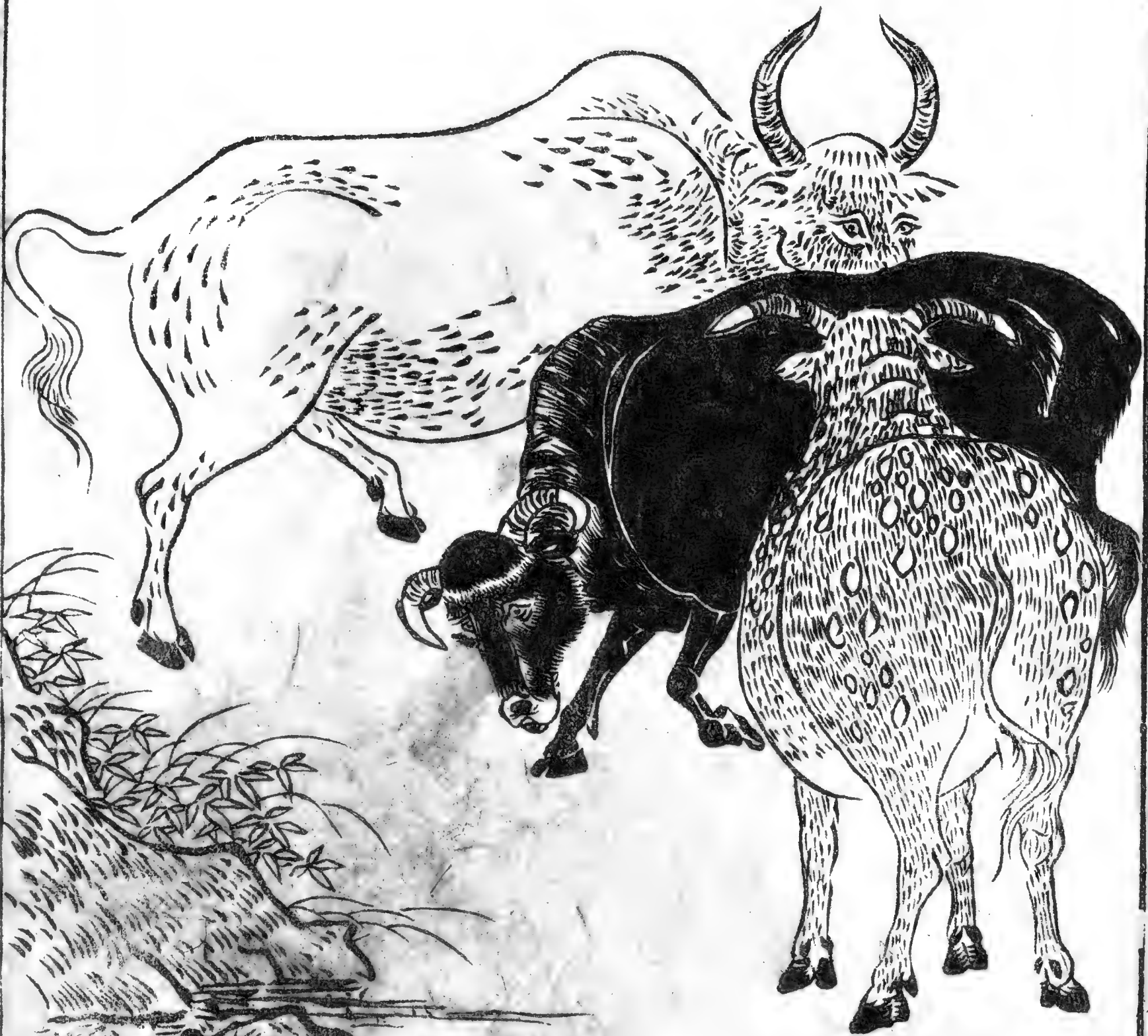
秋
を
り
ん



野の
飼



ろくろんきうけ
麻斑牛毛いろ
まろの





飛龍

金糸巻

七

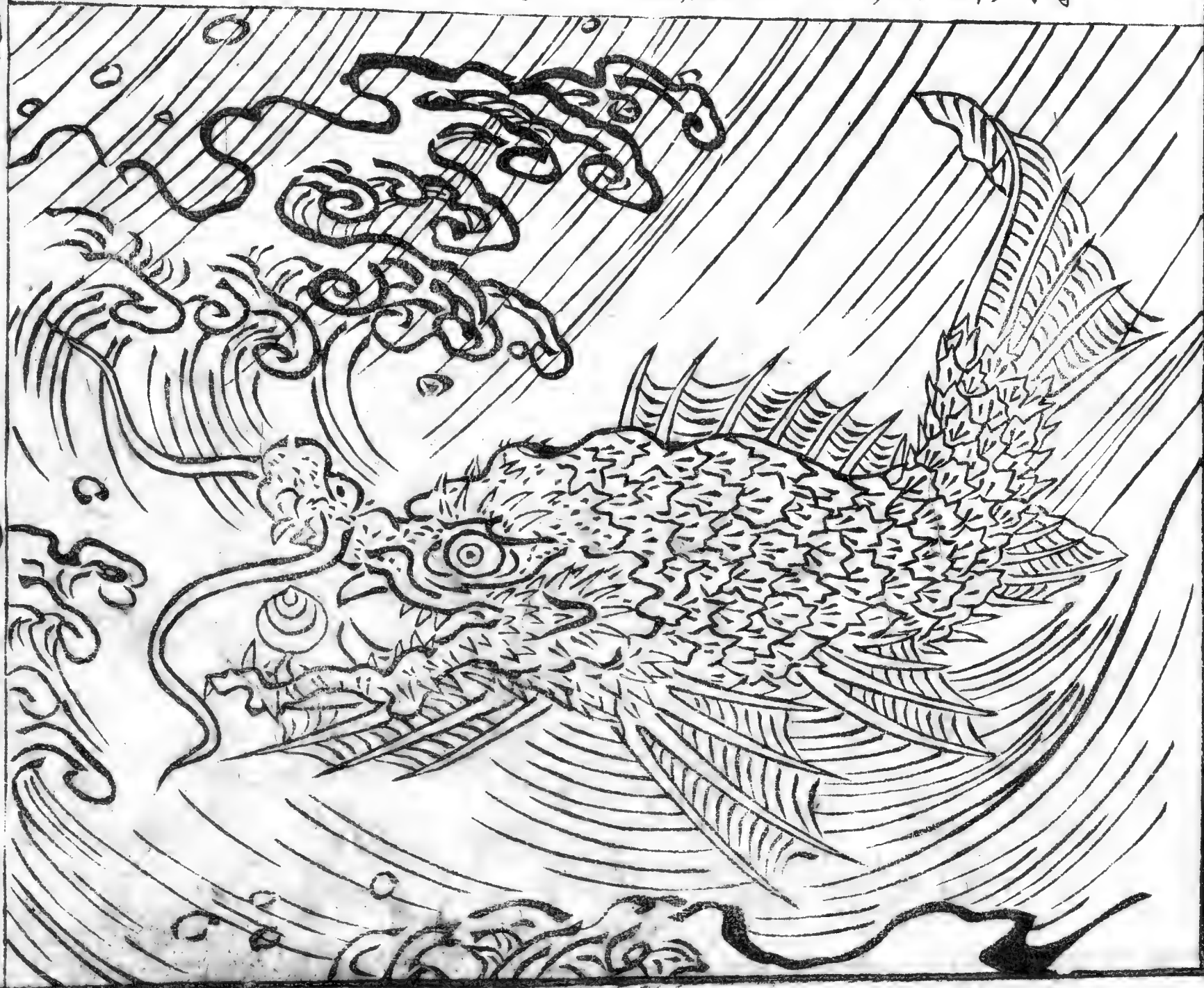
鳴吻頭純類
 身魚類と尾鳴に
 類と能雲雲と起
 大雨降と宮殿
 畫者あり
 彩よる色ハ父
 あり



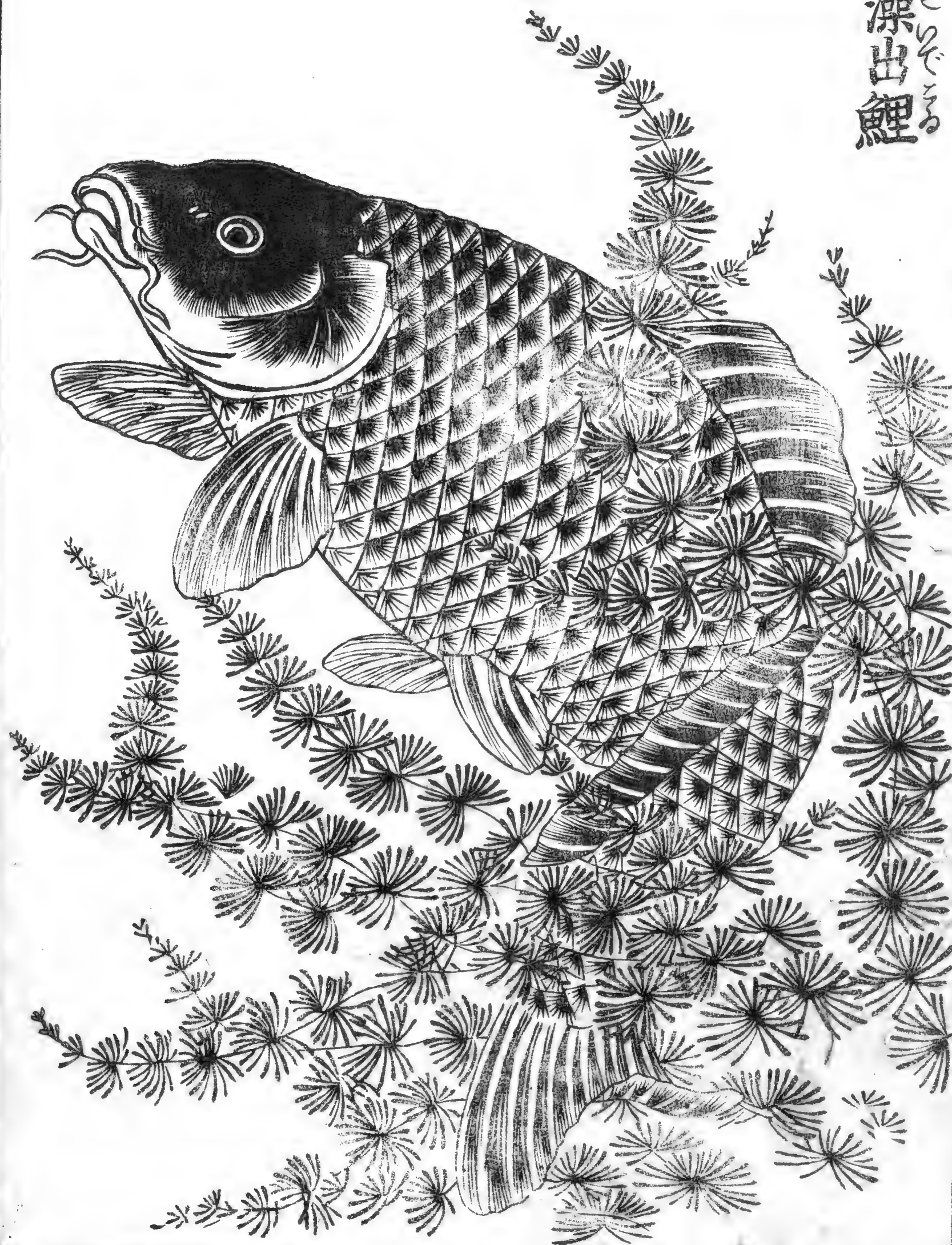
靺鞨魚

靺鞨國の名其國は有る
 故は名を北極界の魚也

北海大魚晝夜至十二時鯢声作
 此狀木也製而更等作作
 拆と名く亦北斗魁星の像と家則
 下は畫物是也又一種有鱗狀龍頭
 魚身全針針佩鎗鬚銀尾靺鞨
 相似り其色黒北方水色兼
 鱗能水氣起自在と龍
 徳あり故に製屋棟小備く火
 災辟或ハ浦珠置と亦浦珠
 口中含ると同意あり雄瓦の端
 巴畫と雌瓦の端ハ海藻と畫と



藻出鯉 とろろ



鯰魚の図

鯰

鯰魚の図
上を食ふ
草けり
後でふんま
裏腹白
眼平金



秋鮒

秋のさひみち
秋のさひみち
秋のさひみち

春鮒

春のさひみち
春のさひみち
春のさひみち



鯰魚の図

てみぐみ
千長鰕
仕立るまのり
後ゆき



寛政五
金魚
七

九
五

あし
蘆
まの
間
かみ
蟹
仕立る
後ゆき
毛か
金魚
後ゆき
うま



寛政五
金魚
七

九
五

毛龜

甲一間と爲るま
仕立まづのめく
尾赤すこま

